

Kenren Charaki

coop 茨城県生活協同組合連合会 広報誌

けんれんいばらき



特集1 会員紹介

茨城保健生活協同組合

特集2 おたがいさま水戸

誰もが安心して暮らせる地域を目指して

●県生協連の活動報告 ●機関会議報告
●県生協連からのお知らせ ●4月~6月の主な行事予定



2025

4月

1972年



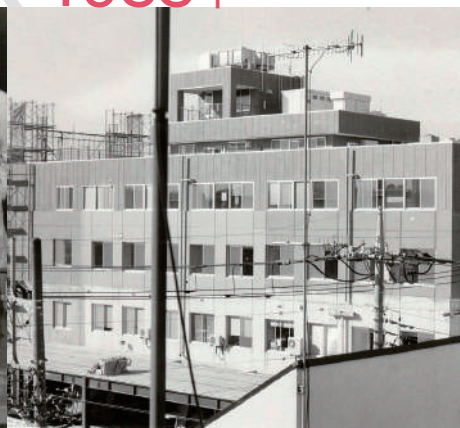
1972年6月 茨城保健生活協同組合 設立発起人会

1978年



1978年 共立診療所職員

1988年



1988年 現在の城南病院の全形が完成

会員紹介

6

茨城保健生活協同組合

地域をつなぐ“コミュニティハブ”として 原点回帰、次の50年へ動き出す

特集

1

インタビュー



菊地 修司

茨城保健生活協同組合 代表理事理事長

今までもこの先も

地域とともに歩む医療保健生協

「安心して良い医療を受けたい」という地域住民や組合員の願いを実現するため、1972年9月に設立された「茨城保健生活協同組合」（組合員13,285人、出資金490,006千円・2025年1月31日現在）。2023年に50周年を迎え、新病院建設の動きが本格化している今、大きな転換期にあります。そんな中、昨年6月、理事長に城南病院の菊地修司院長が就任しました。院長として医療介護活動を先導しながら、法人全体の舵取りも担う菊地理事長に、同組合のこれまでの歩みや今後の展望について伺いました。

茨城保健生協が誕生した1972年、地域の人々の願いを受け、水戸共立診療所が開設されました。当時は、スーパーの2階を診療所に改築、群馬から小児科医を招聘し、小児診療からのスタートでした。夜間の急患や自宅への往診にも対応し、9月の開始から翌年4月まで、完全な休診日は2日しかなかったそう。今では考えられない診療体制の中、地域のため粉骨砕身、診療にあたりました。診療所は1975年に現在の水戸市平須町へ移転、医療展開したのち、病院建設の話が持ち上がり、1980年に城南病院が28床で開院しました（現在113床）。一番の苦労は医師の確保で、役員たちが全国の医学部をあたり茨城出身の医師探しに奔走したといえます。

急速に進む高齢化に伴い、医療だけでなく、看護や介護事業を展開していったのが20世紀終盤のこと。1995年に訪問看護ステーション虹を、介護保険制度が創設された2000年に城南居宅支援事業所をそれぞれ開設しました。その後、城南病院附属クリニックが2004年に開設したタイミングで、本格的に人工透析を開始。さらにこれまで以上に在宅医療を重視する一環として2009年、病棟を改築して回復期リハビリ病棟をオープンさせました。

地域の医療・介護ニーズに応え、発展してきた同組合

2004年



2004年3月に開設した城南病院附属クリニック



ですが2009年1月、城南病院での火災発生という不測の事態に見舞われます。焼失面積は小さかったものの電気系統の被害が大きく復旧には1ヶ月以上を要することに。入院・検査等の医療機能が停止する難局で、近隣の医療機関や全日本民主医療機関連合会(民医連)の関連事業所が患者を受け入れてくれました。菊地理事長は「働く場所もなくなってしまったため、民医連の医療機関で職員を受け入れてもらいました。医療面だけでなく給与面でも援助いただき、職員はいろいろな研修を受けて戻ってくることができました。日頃の連携のありがたみを強く感じた経験でした」と振り返ります。

その2年後、協同の絆を再び実感したのが東日本大震災です。「市内の医療機関はどこも同じく厳しい状況だったため、民医連の神奈川や都内の病院の方々が茨城まで迎えに来て、激励の言葉とともに患者さんを受け入れてくれました。道路状況も悪い中、危険をかえりみず駆けつけてくださり非常にありがたかった」

新病院建設に向けて 経営の健全化を推進

2020年からの世界的なコロナ禍では、地域連携と協同の力を発揮し「出張ワクチン接種」を積極的に展開しました。城南病院では構造的に隔離体制が難しく、コ

ロナ患者の入院治療ができませんでした。そこで、検査をして診断をつけることに集中しようと、使っていなかったプレハブを急遽、専門外来の簡易診療所とし検査体制を整えました。そこからワクチン事業にもかなり力を入れて取り組みました。当時、人員不足や副反応への懸念などで、嘱託医にワクチン接種をしてもらえず困っている社会福祉施設が多くありました。その情報をSNSや人づてにキャッチし、今までつながりがなかった施設も進んで訪問。高齢者施設と障害者施設等あわせて20施設以上、約1,200名の方たちに接種を行いとても喜ばれたといいます。「出張接種をきっかけに新しく関係が生まれ、嘱託医契約をした障害者施設もありました。そのつながりは今も続いており、日常的な診療やいざという時の入院対応を行っています」

そして近年、力を入れているのがIT化です。城南病院附属クリニックでは2023年3月からAI問診を、法人としては同年5月から電子カルテを導入しました。今回の導入時期は、昨年ごろから本格化してきた城南病院の移転建替えを見据え、業務の効率化を先行する狙いもありました。また、IT化の推進は人員不足対策にもつながるため、これからの人たちに選ばれる病院であるために強く進めていく考えです。

設立から半世紀が経ち、新病院建設という一大事業に向けて大きく動き出した同組合。菊地理事長は「まずは法人として経営を安定させ健全化を進めていくことが重要。それとともに、職員や地域の皆さんと情報共有して地域の病院として何を求められているか再認識したい。地域の人々の希望から生まれた医療保健生協であり病院なので、原点に立ち返って今の時代、そしてこれからの50年に求められる姿を考え、奔走していきたい」と力を込めます。

誰もが安心して暮らせる 地域を目指して

日常のちょっとした困りごとを有償ボランティアがお手伝いする「おたがいさま水戸」。茨城保健生協・いばらきコープ・パルシステム茨城 栃木の3つの生協が共同運営する生活支援サービスです。誰もが安心して暮らせる地域社会づくりを目指して、誰かの役に立ちたい人（サポーター）と困っている人（利用者）をつないでいます。そんなおたがいさま水戸の設立背景や活動を通して見えてきた地域課題、今後の目標について、代表の岡部佳代子さんと役員の山川秀樹さんにお聞きしました。

生協の垣根を越えた、助け合いの仕組み

―設立の背景と経緯について教えてください。

山川：高齢化や貧困、孤立など、深刻化する社会課題に一つの生協では対応が難しくなり、地域と協力していく仕組みが求められています。元々、いばらきコープとパルシステムは自前で助け合い制度を持っていましたが、助ける側・支える側ともに組合員が対象です。外へアプローチしていくためには、生協の枠を取り払い、「誰でも利用できる仕組み」が必要でした。

岡部：もう一つは、2015年に介護保険制度が改正され、介護保険から切り離された要支援者等を対象に「総合事業」が創設されました。在宅支援ニーズの高まりが予想されたことから、この総合事業を活用できないかと、茨城保健生協・いばらきコープ・パルシステム茨城 栃木の3生協で検討を始めたのが立ち上げの出発です。2016年から学習会や島根・岐阜への先進事例視察、活動説明会などを行い、2018年7月に「おたがいさま水戸」を設立しました。

―どのような「応援」を行っていますか。

岡部：水戸市内を活動エリアに、幅広い生活支援ニーズに対応しています。一番多いのは家の掃除で次に庭掃除、買い物、食事づくり、通院の付き添いなどです。登録制ではなく、誰でも気軽に使えます。定期的な利用は、水戸市の総合事業が約70名、一般の方が15名です。

また、ボランティアによる応援ではどこまで生活支援できるかという難しさもあります。実際の事例では、独居

だが敷地内に家族が住んでいるため、訪問介護が使えず総合事業からおたがいさまを利用されている方がいます。初めは掃除だけでしたが、身体機能の低下が進むにつれて、洗濯や薬の管理、ごみ出しなど応援内容が増えていきました。この方のように専門的な支援が必要でも、現実には公的サービスが使えない……というケースが多々あります。介護保険制度だけでは在宅生活を支えることが困難になっており、私たちのようなインフォーマルなサービスを提供する団体がますます必要になっています。

―応援サポーターについて教えてください。

岡部：現在のサポーター登録者数は約110名、平均年齢は66歳です。サポーターと利用者をつなぐコーディネーターが4名います。サポーターは、まず水戸市社協の研修を受けて高齢者支援を学びます。そして、おたがいさま水戸独自の研修会でも傾聴や車椅子操作、認知症との向き合い方などを学びます。また、サポーターミーティングも開き、応援で迷ったことや感じた不安を共有するなど交流の機会を大切にしています。

インタビュー

おたがいさま水戸

代表 岡部 佳代子さん

茨城保健生活協同組合

役員 山川 秀樹さん





コロナ禍を経て、 生活応援の必要性を再認識

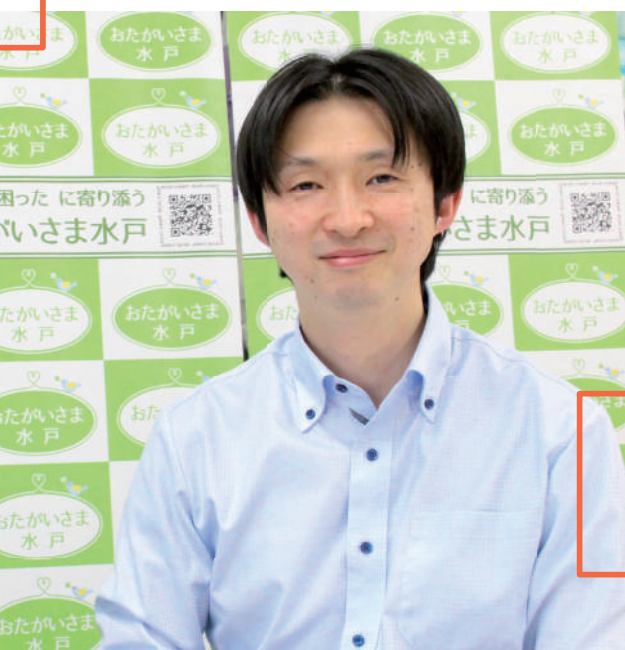
ー利用状況について教えてください。

山川：2018年はサポーター数50名で334時間の応援を行いました。その中で総合事業は5時間とわずかでした。2019年はサポーターを70名まで増やし、一般応援760時間、総合事業500時間、計1,260時間と大きく伸ばしました。特に2021年は一気に2,300時間まで増え、総合事業は約2倍の1,000時間でした。さらに2023年はサポーターが100名を突破し、応援時間も2,500時間を超えました。今年は3,000時間に達する勢いです。

ー利用急増は何かきっかけがあったのでしょうか。

岡部：2019年1月に水戸市の総合事業を受託したことが一つの転機でした。それまで応援依頼は困りごとのある本人や家族からがほとんどでしたが、ケアマネや高齢者支援センターからの依頼が増えました。利用者の生活状況を把握している方が間に入ってくれたことは大きく、そこから利用が広がりました。

もう一つ、2023年度に総合事業の制度が変わりました。今までは応援1回につき1時間・月に4時間までの利用制限があり、通院付き添いや掃除が1時間で終わらないという問題がありました。改定後は1回の利用制限がなくなり上限も2倍に増えたので、使い勝手が良くなり多くの方が利用できるようになりました。



ーコロナ禍はどんな活動状況だったのでしょうか。

山川：コロナ禍での対面活動は大きく停滞しました。その間、生活上の困りごととは我慢したり、遠方に住む家族が支援していたと

思いますが、どちらも1年で限界がきて2021年度に活動が大幅に増えました。生活していく上でおたがいさまは必要な支援だったということが再認識されたのだと思います。

誰もが安心して暮らせる地域を目指して

ー「おたがいさま水戸」が果たす役割についてお聞かせください。

岡部：私たちの目的は「誰もが安心して暮らせる地域づくり」です。そのための役割が、つながりづくり・居場所づくり・健康づくりです。自分にできることで誰かの役に立ちたいという思いをつなぎ、その「わ」を広げること。それがやりがいや生きがいとなり、サポーターの居場所にもなっています。また、私たちの活動は社会的参加であり、サポーターの健康づくりやフレイル予防にも貢献していると思います。

ー今後の目標を教えてください。

山川：活動が8年目に入り、様々な課題が見えてきました。現在は高齢者支援が主ですが、地域づくりは高齢者支援に限ったことではないので、多種多様なつながりをつくり、多世代の困ったに寄り添える団体にしていきたいです。

岡部：まずは、子育て世代のママ・パパ応援に力を入れたいです。経済的困難な家庭や子育て世代への応援が思うようにできずにいますので、子育て世代に対してどんな応援が必要かをリサーチして力になりたいと思います。

もう一つは、利用者からの要望が多い移送サービスの実施です。免許返納後の足の確保は高齢者の大きな悩みです。私たちだけでこのサービスを提供するのは難しいので、他団体と協力して形にしていきたいです。

水戸以外の自治体で「おたがいさま」をつくるお手伝いもしたいです。公的制度や地縁・血縁だけで暮らしを支えることが難しい社会になっています。人と人がつながりあって誰もが孤立せず共に生きる社会をつくっていくために、他団体と協力連携しながら活動の輪を広げていきたいと思っています。

おたがいさま水戸の活動を紹介しています

<https://www.youtube.com/watch?v=fZ1Cv1l8s0Q>



県生協連の活動報告

2024年11月-2025年2月



11/7

農林水産省関東農政局と茨城県消費者団体連絡会とで「日本の食料安全保障」「みどりの食料システム戦略」について意見交換会開催



11/20

茨城県生活協同組合連合会と茨城県県民生活環境部生活文化課との定期懇談会開催



12/12-13

フードバンク茨城、協同組合ネットいばらき、県生協連が共催し、2024冬子ども応援プロジェクトと学生食の支援を実施



1/8

ホテル・ザ・ウェストヒルズ水戸にて新春交流会を開催
230名(国会議員13名、県議会議員33名、市町村長19名、行政・友誼団体85名、会員生協80名)の皆様が出席



11/9

秋のどきどき収穫祭に、みまもりあい推進ネットワーク団体とみまもりあいアプリブース出展



11/27

県社協主催の福祉コミュニティづくり推進の「つどい」にみまもりあいアプリ紹介ブース出展



12/14

水戸駅にて「ユニセフハンドインハンド募金」を実施



11/16

JAグループ茨城
チーム対抗4時間耐久リレーマラソンに「健康測定と相談会」ブース出展



12/3-16

茨城県庁で開催された「いばらき消費生活展2024」に出展



12/19

東京、賀川豊彦記念松沢資料館で県連役員研修会を実施



2/23

水戸ホーリーホックアイスデンキスタジアム水戸ホーム開幕戦
協同組合マルシェに国際協同組合年宣伝ブースを出展

機関会議報告



■2024年度 第4回理事会

開催日時: 2024年11月20日(水) 14時30分~15時30分

開催場所: 茨城県JA本館 4階 第一会議室

出席: 理事11名、監事3名、オブザーバー1名、事務局1名

【議決事項】

- (1). 令和6年能登半島豪雨被害に対する義援金支出の件は井坂専務より提案し承認された。
- (2). 2025年1月8日(水)新春交流会の概要の件は井坂専務より提案し承認された。
- (3). 2025年組合員活動交流会 実行委員の協力をお願いの件は井坂専務より提案し承認された。
- (4). 2024年度上半期活動報告と下半期の課題の件は井坂専務より提案、鴨志田監事より2024年度期中監査報告がされ承認された。

■2024年度 第5回理事会

開催日時: 2025年1月8日(水) 12時15分~12時45分

開催場所: ホテル・ザ・ウェストヒルズ水戸

出席: 理事14名、監事3名、事務局1名

【議決事項】

- (1). 2025年度役員定数(理事・監事)及び役員選任に関する公告の件は井坂専務より提案し承認された。
- (2). 役員推薦委員会の設置及び役員推薦委員選出の件は井坂専務より提案し承認された。
- (3). 第53回通常総会の開催の件は井坂専務より提案し承認された。
- (4). 2025年度茨城県生協連会費(1次)の件は井坂専務より提案し承認された。



県生協連からのお知らせ

01 公 告

2025年3月31日

茨城県生活協同組合連合会

会長理事 鶴長 義二

定款44条にもとづいて第53回通常総会を下記により招集することを公告します。

- 日 時 2025年 6月19日(木) 10:30～
○会 場 ホテル ザ・ウェストヒルズ水戸 住所／茨城県水戸市大工町1-2-1 TEL.029-303-5111
○議 事 第1号議案 2024年度活動報告、決算報告、並びに剰余金処分案に関する件
2024年度監査報告
第2号議案 2025年度活動方針(案)並びに予算(案)承認の件
第3号議案 役員選任の件 以上

02 2025ピースアクションinいばらき春

(主催 茨城県ピースアクション実行委員会 共催 協同組合ネットいばらき)

戦争の悲惨さと平和の大切さを学ぶ特別な1日。

記念館見学で歴史を肌で感じた後は、平和をテーマにした謎解きワークショップに挑戦。楽しく学びつつ、未来を担う子どもたちと共に、どうすれば争いのない世界が作れるかをみんなで考えましょう。



筑波海軍航空隊記念館

- 日 時 2025年4月12日(土) 10:00～12:00(受付9:45～)
○集合場所 筑波海軍航空隊記念館 住所／茨城県笠間市旭町654(茨城県こころの医療センター敷地内)
○対 象 どなたでもご参加いただけます。 ○定員 50名 小学生以上推奨 ○参加費 無料
○申込み 4月10日(木)までに電話、または二次元バーコードにてお申込みください。
茨城県生活協同組合連合会 TEL.029-226-8487
受付／月曜～金曜日(祝日除く) 10:00～16:00

■二次元バーコード➡



茨城県

若者が気を付けたい消費者トラブルの例

就職や進学などにより生活環境が変わる時期を迎える若者は、
社会経験の少なさから、悪質商法などの消費者被害に遭いやすい傾向があります。

知人やアプリで知り合った人からの勧誘による

マルチ商法



契約時には慎重な検討を

美容に関するトラブル



「簡単に稼げる」と広告で強調する

サイドビジネス商法



思わぬ高額請求を受けることも

緊急時サービスに関するトラブル



消費者
トラブルの
ご相談は

消費者ホットライン

☎188 (いやや)へ!

お近くの消費生活相談窓口、または国民生活センターをご案内します。

茨城県消費生活センターホームページは [いばらき消費生活ナビ](#) [検索](#)

令和6年度 若者向け悪質商法

被害防止共同キャンペーン

詳しくはこちらから [>](#)



県生協連の活動予定

4月～6月の主な行事予定

4月	12日(土) 2025ピースアクションinいばらき春
	16日(水) 3役会 / 役員推薦委員会
	17日(木) 協同組合ネットいばらき幹事会

5月	10日(土) おたがいさま水戸役員会
	21日(水) 理事会
	23日(月) 協同組合ネットいばらき総会
6月	13日(金) 日本生活協同組合連合会通常総会
	19日(木) 茨城県生活協同組合連合会通常総会



国際協同組合年

協同組合はよりよい世界を築きます



協同組合団体のロゴの一例

**国連は平和と安全、開発、人権・人道の問題などのテーマについて、
国際社会の関心を喚起し取り組みを促すために、親和性の高い事業体の協同組合に期待し、
2025年を「国際協同組合年」とすることを決めました。**

茨城県内の協同組合を中心とした連携組織「協同組合ネットいばらき」は、2025国際協同組合年の実行委員会を立ち上げ、協同組合の価値や現代社会で果たしている役割を、広く県民にPRを行い、協同組合理念を推進する運動を展開します。

主な活動目標

1. 協同組合の理解を促進し、認知度を高めること
2. 協同組合間の連携を一層進めること
3. 協同組合やそれ以外の協同の輪を広げ地域課題へ向き合うこと
4. SDGsの実現に向けた協同組合の実践を深め広めること

主な取り組み

PR動画制作、SNS活用、協同組合の出前授業・体験学習の紹介提供、
協同組合クイズ(4～12月)、協同組合まつりなどでの広報、
協同組合同士の相互理解促進、協同組合学習など



協同組合クイズにチャレンジ!!

「協同組合クイズキャンペーン」4～12月を実施。キャンペーン用のウェブ
サイトから協同組合にまつわるクイズに挑戦し、抽選で協同組合ネット
いばらき会員団体に関連する県産品などをプレゼントします。
(毎月クイズは変わります)



キャンペーンサイト

<https://www.ib-ja.or.jp/kyodokumiainetibaraki>

二次元コードはこちら

発行 茨城県生活協同組合連合会

〒310-0022 水戸市梅香1丁目5番5号 茨城県JA会館分館5階 TEL.029-226-8487 FAX.029-224-1842

URL.<http://www.ibaraki-kenren.coop/index.html> E-mail:ibkenren@ibaraki-kenren.coop